

科目名		無機・分析化学実験 I (Exp. In Inorg. & Anal. Chem. I)							
学年	学科(コース)	単位数		必修 / 選択	授業形態	開講時期	総時間数		
第2学年	物質工学科	履修	2 単位	—	実験	前期 180 分/週	60 時間		
担当教員		【常勤】 茂野交市, 友野和哲							
学習到達目標									
科目の到達目標レベル	次の4点が到達レベルである。 (1)実験を行うにあたって安全に関する基本的知識を習得し、安全第一への意識を定着することができる。 (2)化学実験の際に使用する実験器具の名称や基本的な計算の方法を習得できる。 (3)基本的な実験器具および化学薬品の使用方法を理解し、実際に使用することができる。 (4)化学実験における基本的なレポートの書き方を習得できる。								
学習・教育目標	(A)	JABEE基準1(2)							
関連科目, 教科書および補助教材									
関連科目	化学A(1C)								
教科書	「無機分析化学実験I実験書」(講義第1回目に配布), 「実験・実習の安全 -化学編-」(実教出版)								
補助教材等	「ダイナミックワイド図説化学」(東京書籍)								
達成度評価 (%)									
評価方法 指標と評価割合	中間試験	期末・ 学年末 試験	小テスト	レポート	口頭 発表	成果品	ポート フォリオ	その他	合計
			20	50				30	100
知識の基本的な理解 【知識・記憶、理解レベル】			○	◎					
思考・推論・創造への 適用力 【適用、分析レベル】			◎	○				◎	
汎用的技能 【 】				○ 情報収集・課題 発見力・論 理的思考力				○ 課題発見力	
態度・志向性(人間力) 【 】			○ 主体性	○ 自己管理力				○ 主体性・自己 管理力	
総合的な学習経験と 創造的思考力 【 】									
学習上の留意点および学習上の助言									
<p>【学習上の留意点・助言】実験は理工系学科の教育の根幹をなし、大きな意義を持つ。本科目は高専における初めての の実験科目であり、実験に対する基本的な構えや基本的な操作方法を学ぶ。本科目で習得した内容が今後高学年 でより高度な実験を行う際の基盤となるため、非常に重要となることは容易に想像できるであろう。まず第一にしっかりと とした心構えで実験に臨み、その上で実験の面白さを体験し、興味を持っていただければ幸いである。準備学習として は、テキスト・補助資料を通読し、予習をきちんと行うこと。特に安全に関わる部分を熟読しておくこと。レポート作成と しては、関連する基礎知識、またなぜ結果がそうなったのかその原理を、また予想された結果と異なった理由・原因、 疑問に思うこと(課題発見力)をしっかりと考察すること。</p> <p>【成績評価方法】各実験テーマごとに各実験テーマごとに実験結果報告書(小テスト含む)及びレポートを提出させ、実 験に対する姿勢(実験ノート、予習状況、当日の実験操作)と共に総合的に評価する。単位を取得するためには原則と してすべてのレポートを提出する必要がある。原則として正当な理由なくして欠席した場合には単位を与えない。</p>									

授業の明細

回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	実験全体の説明	実験を進めるうえでの注意事項を各実験テーマの概略, レポートの作成方法について理解する。	安全教育に関する教科書を読んでおくこと。
2	○安全教育1 ★基本操作1 「溶液温度の測定」	危険物の取り扱い、危険な操作の際の注意点について理解する。(3回目も同じ)。 バーナーの使用法・加熱の仕方、駒込ピペットの使い方、メスシリンダーの使い方を理解する。	教科書とダイナミックワイドの対応ページを予習・復習すること。
3	○安全教育2 ★基本操作2 「粒状炭による脱色実験」	ろ紙の使用法、ろ過の方法、天秤の測定方法を理解する。今までの基本操作を用い、粒状炭による脱色実験を行い、結果と考察を述べるができる。	教科書とダイナミックワイドの対応ページを予習・復習すること。 <u>次回レポート1</u>
4	★基本操作3 「陽イオン交換樹脂による陽イオンの除去」	今までの基本操作を用い、陽イオン交換によるろ液のPHの変化を観察し、考察を述べるができる。	教科書とダイナミックワイドの対応ページを予習・復習すること。 <u>次回レポート2</u>
5	○溶液の濃度計算1 ★試薬の調製1	メスフラスコの使用法を理解する。 塩化ナトリウム水溶液の調製を習得する。	教科書とダイナミックワイドの対応ページを予習・復習すること。
6	○溶液の濃度計算2 ★試薬の調製2	水酸化ナトリウム水溶液の調製を習得する。	教科書とダイナミックワイドの対応ページを予習・復習すること。
7	○溶液の濃度計算3 ★試薬の調製3	アンモニア水の調製を習得する。	教科書とダイナミックワイドの対応ページを予習・復習すること。
8	○溶液の濃度計算4 ★試薬の調製4	硫酸の調製を習得する。	教科書とダイナミックワイドの対応ページを予習・復習すること。
9	★試薬の調製5 「酸塩基反応」	今まで試薬の調製にて作成した溶液を用いた簡易中和滴定の方法を習得する。	教科書とダイナミックワイドの対応ページを予習・復習すること。 <u>次回レポート3</u>
10	★試薬の調製6 「気体の発生(アンモニア,二酸化炭素)」	今までの基本操作を用い、アンモニアと二酸化炭素の発生方法を習得し、原理を理解する。	教科書とダイナミックワイドの対応ページを予習・復習すること。 <u>次回レポート4</u>
11	★基本操作4	メスピペット・ホールピペットの使用法、安全ピペットの使い方を理解する。	教科書とダイナミックワイドの対応ページを予習・復習すること。
12	★基本操作5 「メスピペットを使った応用実験」	吸光度を測定することにより、もとの溶液の濃度を求める。原理と方法を習得する。	教科書とダイナミックワイドの対応ページを予習・復習すること。 <u>次回レポート5</u>
13	基本操作の確認1 「実技試験」	今までに行った実験のなかから重要なものいくつかについて1人ずつ実技テストを行う。	これまで学んだ基本操作と試薬の調製方法を復習しておくこと。
14	基本操作の確認2 「実技試験の説明講評」	過去の小テストの解答および実技試験の説明講評を理解し、次回以降の操作に生かす。	これまで学んだ基本操作と試薬の調製方法を復習しておくこと。
15	まとめ	全体の学習事項のまとめを行う。 実験評価アンケートを行う。	これまで学んだ基本操作と試薬の調製方法を復習しておくこと。
総授業時間数			60 時間